

第2期滝川市小・中学校適正配置計画改訂(案)

PTA役員・在校生保護者懇談会 Q & A

【懇談会の開催経過】

令和7年9月4日(木)	PTA役員懇談会(滝川第一小学校)
令和7年9月8日(月)	PTA役員懇談会(西小学校)
令和7年9月11日(木)	PTA役員懇談会(江陵中学校)
令和7年9月17日(水)	PTA役員懇談会(滝川第二小学校)
令和7年9月26日(金)	PTA役員懇談会(江部乙小学校)
令和7年9月30日(火)	PTA役員懇談会(開西中学校)
令和7年10月1日(水)	在校生保護者懇談会(滝川第一小学校・江陵中学校区)
令和7年10月3日(金)	在校生保護者懇談会(江部乙小学校・江陵中学校区)
令和7年10月8日(水)	在校生保護者懇談会(滝川第二小学校・江陵中学校区)
令和7年10月16日(木)	在校生保護者懇談会(西小学校・開西中学校区)
令和7年10月21日(火)	PTA役員懇談会(滝川第三小学校・東小学校・明苑中学校区)

【Q & A】懇談会での主な質問・意見は次のとおりです。※()は件数

1. 計画・統合方針

Q1 通学区域の見直しは考えていないのですか。(1)

A1 適正規模を確保する方法としては、学校の統合の他にも通学区域の見直しが考えられます。

しかし、現状の学校数を維持したままでは、通学区域の見直しのみで適正規模を維持することは難しい状況です。

また、現在の通学区域はおおむね徒歩で通学できる範囲で設定されていることから、今回の統合に伴う通学区域の見直しは現時点で想定しておりません。

Q2 地域に学校を残す考えはありますか。(1)

A2 地域に学校を残すことは、子どもたちの教育環境や地域の活力の面からも大切なことだと考えています。

しかし、児童生徒数の減少により、すべての地域で現状の学校を維持することは難しくなってきました。

このため、市としては、地域や保護者の皆さまのご意見を伺いながら、子どもたちが安心して学べる教育環境を確保するための適正配置を検討しています。

Q3 この計画改訂案はもう決定しているのですか。(1)

A3 現在はまだ計画案の段階です。

今後、保護者や地域の皆さまから寄せられたご意見やアンケート結果を参考にしながら、より良い計画となるよう検討を進め、今年度中の成案を目指しています。

Q4 統合に反対が多ければ実施しない可能性はありますか。(1)

A4 統合の是非につきましては、反対に対するご意見の多さだけで実施の可否を決定するものではありませんが、保護者や地域の皆さまから寄せられたご意見やアンケート結果を十分に尊重しながら、慎重に検討を進めてまいります。

ただし、最終的な判断は、児童生徒のより良い教育環境の確保や、今後の学校運営の持続可能性など、教育的・行政的な観点を総合的に踏まえて、滝川市教育委員会において行います。

Q5 最終的な判断はアンケートで決めるのですか。(1)

A5 懇談会や市民説明会のご意見やアンケートでの結果を踏まえ、最終的な判断は滝川市教育委員会が行います。

Q6 統合方針の決定はいつですか。(3)

A6 懇談会や市民説明会のご意見やアンケートでの結果を踏まえ、今年度中に統合方針を決定する予定です。

Q7 なぜ第2期計画の見直し段階で第3期(令和13年度以降)の統合方針を示すのですか。(1)

A7 今回見直す第2期後期計画では、小・中学校の適正配置計画の基本的な方向性に大きな変更はありません。

そのため、第3期(令和13年度以降)に予定する統合についても、あらかじめ方針をお示しすることで、地域や保護者の皆さまと早い段階から共有し、統合に向けた準備や事前交流学习などを計画的に進められるようにしたいと考えています。

Q8 なぜ滝川第二小学校は令和18年度以降の統合なのですか。(2)

A8 滝川第二小学校は、滝川市が目指す適正規模の基準を下回っておりますが、全学年が単学級とまらないなど学校全体として一定の児童数が確保されており、各種教育活動や学校行事を支障なく実施できる規模であると考えています。

一方で、統合を行う場合には、通学距離が長くなることにより、児童の体力的な負担や登下校時の安全面といった課題も懸念されます。

こうした教育的効果と通学面の実情の双方を総合的に勘案し、現時点では単独での存続が教育的にも望ましいと判断しております。

また、統合に当たっては、児童が安心して新しい環境に移行できるよう、事前の交流学习など十分な準備期間が必要であることから、児童数の推移および計画見直しの時期を踏まえ、令和18年度以降の統合を目指す方針としております。

Q9 児童数推計が変動した場合、統合時期は前倒しとなりますか。(1)

A9 児童数の推計は、社会情勢や地域の人口動向などにより変動する可能性があります。

そのため、市では定期的に児童生徒数の推移を確認し、必要に応じて計画の見直しを行うこととしています。

一方で、統合が伴う場合には、統合準備や事前交流学习などの時間の確保も必要となることから、適正配置計画の見直しサイクルである5年ごとに判断していく予定です。

このため、児童数の変動のみを理由に統合時期を前倒しすることは、現時点では想定していません。

Q10 江部乙小学校は隣接する滝川第二小学校ではなく、滝川第一小学校に統合するのはなぜですか。(2)

A10 適正配置計画は、教育環境の質を確保することを目的としており、各学年においてクラス替えが可能となる規模として、各学年2学級以上を基本とし検討を進めております。

江部乙小学校を隣接する滝川第二小学校に統合した場合、令和13年度においても各学年で2学級以上の規模を確保することができず、適正規模を維持することが困難な状況です。

このため、滝川第一小学校と滝川第二小学校は約2km離れておりますが、滝川第一小学校に統合することにより、適正規模を確保しつつ、新しい校舎において児童が安心して学習できる環境を整備することが可能になります。

Q11 滝川第一小学校は統合するための建替えですか。(1)

A11 滝川第一小学校につきましては、築65年を迎えた校舎の老朽化対策として建て替えを進めているものであり、今回の統合が直接の要因ではありません。

また、令和13年度には滝川第一小学校を含め、他の小学校でも各学年が1学級となることが想定されているため、建て替えに合わせて適正規模を確保する検討を進めています。

Q12 校舎の新しい開西中学校ではなく、江陵中学校へ統合する理由を教えてください。(4)

A12 開西中学校は、耐震化に伴い建て替えが行われていますが、当時の生徒数に合わせて各学年2学級編成、全6学級規模で整備されているため、統合後に見込まれる約10学級を収容することはできません。

また、統合後の通学区域は滝川第一小学校・滝川第二小学校・西小学校・江部乙小学校区の生徒が対象となるため、これらの校区の中心付近に位置する江陵中学校への統合が、通学の利便性や立地的にも適当であると判断しています。

Q13 小中一貫教育・義務教育学校の導入は検討していますか。(4)

A13 現時点では、小学校と中学校それぞれの段階において、発達段階に応じた教育を行いながら、小中連携による教育(通学区域の整合など)を継続し、小学校から中学校への円滑な接続を図っております。

児童生徒数の減少や教育ニーズの変化により、将来的に小中一貫教育などの導入を検討する時期が訪れる可能性はありますが、今回の滝川第一小学校の建て替えにあたっては、小中一貫教育や義務教育学校などの施設整備は想定しておりません。

Q14 滝川市の適正配置計画の方針について、全国や全道の状況と比較した場合どのような位置づけになるのか。また、これは一般的な取り組みなのか、それとも財政的な厳しさや児童数減少といった事情によって統合を進めているのか教えてください。(1)

A14 適正配置計画は、全国的に多くの自治体が児童生徒数の減少や学校の小規模化への対応として進めている一般的な施策で、教育環境の維持・改善や児童の学びの質の確保を目指すとともに、財政面や学校施設の老朽化といった課題にも配慮した計画となっています。

滝川市においても、教育環境の維持・改善や児童の学びの質の確保するため、今後の児童生徒数の推移を踏まえ、適正な学校規模・配置の実現に取り組むことで、持続可能な教育環境の整備を進めてまいります。

2. 児童生徒への配慮

Q1 統合で生じる児童生徒の心理的負担に対して、どのような対策をしますか。(6)

A1 学校の統合に伴い、児童生徒が新しい環境に適応する過程で、不安やストレスを感じる事が想定されます。

このため、子どもたちの気持ちに寄り添い、円滑に新しい環境へ移行できるよう、統合校同士での「事前交流学习」の準備が整いしだい実施する予定です。

これにより、新しい友達や教職員に親しみをもち、安心して新しい学校生活を迎えられるよう支援いたします。

また、統合後においても、学校全体で丁寧な対応を行うとともに、保護者の皆さまのご理解とご協力をいただきながら、児童生徒が安心して通える学校づくりを進めてまいります。

Q2 統合となる江部乙小学校の児童は統合後、同じクラスにしてもらうことは可能ですか。(1)

A2 クラス編成については、児童数や学年構成などを踏まえ、学校の判断により行われます。

ただし、統合により環境が大きく変わることを考慮し、子どもたちが安心して新しい学校生活を始められるようにできる限り配慮していく考えです。

3. 学級編制

Q1 1学級の人数を35人より減らす予定はありますか。(1)

A1 小学校の学級編成の標準は、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」第3条で、現在1学級35人と定められており、学級数に応じて教員が配置されています。

滝川市教育委員会が独自に、これより少ない人数で学級を編成することも可能ですが、その場合は追加で必要となる教員の人件費などは滝川市で負担することになります。

また、教職員の確保は全国的にも課題となっており、財政面や人材確保の状況を踏まえると、現時点で滝川市が独自に35人を下回る学級編成を行うことは難しいのが実情です。

4. 教職員配置

Q1 統合で教員数は減りますか。(2)

A1 教職員の配置は「教職員定数配置基準」に基づいて決定されるため、統合後の学級数に応じて配置されることとなります。

このため、北海道教育委員会から配置されている教職員の総数は減少する見込みです。

ただし、滝川市の負担で配置しているALTや学びサポーター、特別支援学級支援員などについては、児童一人ひとりに丁寧に寄り添い、教育の質を維持できるよう、今後も必要に応じて配置してまいります。

Q2 統合した際、在籍していた先生方は統合先に異動できますか。(2)

A2 教職員の配置は、北海道教育委員会の権限に基づき、その時点における人事判断により決定されます。そのため、統合時に在籍していた教職員が必ずしも統合先の学校に異動できるとは限りません。

ただし、これまでの学校統合においては、児童生徒が安心して新しい環境に移行できるように配慮された事例もあります。

今回の統合につきましても、児童生徒が安心して新しい環境に馴染めるよう、北海道教育委員

会に対して配慮を要請してまいります。

5. 通学

Q1 統合後の児童生徒の通学手段はどうなりますか。(8)

A1 滝川市では、通学の徒歩圏を小学校でおおむね2 km 以内、中学校でおおむね3 km 以内を基本としています。

現在も、ほとんどの児童生徒がこの範囲内で徒歩通学をしています。

統合後においても、この基準を基本として通学方法を検討しますが、徒歩圏外となる地域については、スクールバスの運行なども含め、児童生徒に過度な負担が生じないように配慮してまいります。

6. 施設整備・施設活用

Q1 江陵中学校校舎は老朽化しているが、開西中学校との統合に合わせて建替えるのですか。(5)

A1 財政的な観点から、小学校の建て替えと並行して新たに江陵中学校を建て替えることは難しく、現時点では建て替えの計画はございません。

ただし、江陵中学校は生徒が引き続き学ぶ大切な学校であることを踏まえ、統合に合わせて、可能な範囲で校舎の改修や修繕を行い、教育環境の改善に努めてまいります。

Q2 開西中学校を改築した当時に今回の統合を想定できなかったのですか。(2)

A2 国内で大規模な地震が発生したことを受け、市内の小・中学校における児童・生徒の安全確保のため、耐震化工事を迅速に進めてまいりました。

市内の全ての学校で耐震化が必要とされ、財政的な制約から既存の校舎を活用した耐震改修を基本としておりますが、開西中学校は一部の校舎で既存校舎を活かした耐震改修が困難であったため、校舎の一部を改築することにより耐震化を実施しました。

当時、江部乙中学校を除く、市内の中学校の学級数は7～14学級であり、滝川市が目指す適正規模であったため、将来的な生徒数の減少は一定程度想定されていましたが、適正規模を下回り統合を検討するまでには相当の期間を要する見込みであったため、開西中学校は当時の生徒数に合わせた学級数で整備を行いました。

Q3 統合して空いた開西中学校の校舎はどう活用する予定ですか。(2)

A3 統合が決定した場合、平成25年度に改築された比較的新しい施設であることから、解体は行わず、他の機能への転用も視野に入れて今後の活用方針を検討してまいります。

具体的な活用内容は現時点では未定ですが、空き施設とならないよう関係部局と連携し、早期に方針を定められるよう取り組んでまいります。

Q4 統合後に閉校となる小学校の跡地活用の予定はありますか。(3)

A4 統合後に閉校となる小学校の利活用につきましては、地域のニーズや、部活動の地域展開の状況などを踏まえながら、可能な範囲で有効な活用方法を検討してまいります。

また、教育委員会としても、旧校舎をはじめとする未利用施設の活用は重要な課題と認識しており、活用の見込みがない施設については、老朽化の状況も考慮し、施設管理を担当する部署と連携して解体を含めた対応を検討してまいります。

7. その他

Q1 中学校統合後の部活動は維持されますか。(1)

A1 統合により生徒数が増加することで、既存の部活動が活発化することは考えられます。
一方で、部活動は国の方針により地域と連携して運営する「地域展開」が進められており、滝川市でも今後の継続的な地域展開の在り方について検討を進めているところです。

Q2 新しい小学校の名称やPTA会費・同窓会積立金などの扱いはどうなりますか。(2)

A2 新しい小学校の名称については、現段階では「滝川第一小学校」の継続を想定しています。
また、PTA会費や同窓会費などの扱いについては、統合方針の決定後に統合準備委員会を設立した後、関係者の皆様と具体的な協議を進めていく予定です。

Q3 今後の進捗はどのように周知されますか。(1)

A3 今後の進捗につきましては、市民の皆さまに幅広くお知らせできるよう、広報紙や市のホームページなどを通じて継続的に情報発信を行ってまいります。
また、在校生の保護者の皆さまには、小・中学校向けの保護者連絡ツール「tetoru」を活用し、丁寧な情報共有に努めてまいります。

Q4 小規模学校での教育環境を望む児童向けに市外からも受け入れ可能な特色のある学校の計画はないのですか。(2)

A4 現在、小規模校での教育を望む児童を市外から受け入れるなどの特色ある学校の計画はございません。
滝川市としましては、児童数の推移を踏まえながら、小・中学校の適正規模を維持し、どの地域でも等しく質の高い教育環境を確保していく方針です。
地域ごとの教育環境の安定と児童一人ひとりへのきめ細やかな指導を重視し、今後も適正な学校配置を進めてまいります。

Q5 滝川第一小学校の新校舎には、学童の複合化を予定していますか。(3)

A5 新校舎では、児童の安全確保や保護者の利便性向上の観点から、学校施設と一体となった学童保育の整備を計画しております。
現在、進めている基本計画の中でも学童保育室の併設を想定しており、今後は具体的な配置や運営のあり方について、学校関係者や保護者の皆様のご意見を伺いながら検討を進めてまいります。

【意見・要望】※（ ）は件数

1. 計画方針

- ① 統合時期や方針を早期に決定し、広く周知してほしい。(4)
- ② 地域から学校がなくなる寂しさを感じる一方で、少人数化の弊害を理解し、統合はやむを得ない。(3)
- ③ 統合は賛成だが、保護者間では現校で卒業させたいとの声もある。(1)
- ④ 人口減少により教員も減少している。教育環境確保のため統合することは賛成。もっと早い時期に統合しても良かったのではと思う。(1)
- ⑤ 児童数の減少が見えているのであれば統合を早めても良いと思う。(1)
- ⑥ 統合する場合は、その時に対象となる在校生は、印象としては「中一ギャップ」がこの世代には早く訪れる程度にすぎないのではないかと感じるため、統合時期の違いに大きな差になるとは思いません。(1)
- ⑦ 小学校段階からの統合の方が、中学校での急な合流よりも、いじめや揉め事などが発生しにくい。ため、滝川第二小学校も令和13年度に統合した方が良いと思う。(1)
- ⑧ 1クラス規模では人間関係のトラブルが解決しにくい。ため、クラス替えや複数学級を維持出来る面は統合のメリットだと思う。(1)
- ⑨ 子どもが江部乙中から江陵中への統合を経験したが、保護者としても違和感はなかった。子どもに聞いても「どちらでもよい」との受け止めであり、統合に反対する意見はない。(1)
- ⑩ 可能であれば、江部乙に小学校を残してほしい。(1)

2. 児童生徒への配慮

- ① 統合はやむを得ないが、子どもたちの心理的負担について配慮してほしい。(4)
- ② 現状の小規模だからこそ教員の目が行き届くこともあるため、統合して児童生徒数が増えた場合に、それが難しくなることに不安がある。(2)
- ③ 在学途中での他校への統合となる子どもたちのストレスが心配。(1)
- ④ 子どもたちの友人関係やコミュニティの形成を考えると、滝川第二小学校も令和13年度に他校と同時に統合する方が良いと思う。(1)

3. 通学

- ① 通学方法や安全面を配慮してほしい。(6)
- ② 子どもたちの持ち物が増えているので、徒歩圏の2kmでも特に小学校低学年は通学が負担になると思う。(1)
- ③ スクールバス通学は登下校の安全は確保されますが、その一方で子どもたちの日常的な歩行による運動量が減ってしまうことが心配です。統合後にスクールバス通学となる場合、安全面の安心感はあるが、子どもが歩いて通う運動機会の減少を懸念する。(1)

4. 施設整備

- ① 江陵中学校への統合は校舎老朽化が不安であるため、建替または大規模な改修をしてほしい。(3)
- ② バスケットボールなどの活動で体育館を利用しているので、統合によって閉校になった後も活動場所を確保できるよう配慮してほしい。(1)

- ③ 中学校の統合は、校舎が新しい開西中学校になると思っていた。せつかく統合するなら、新しい・きれいな校舎で学ばせた方が良くと思う。(1)
- ④ 開西中学校を空き施設にするのはもったいないので、空き施設とならないように活用すべき。(1)
- ⑤ 他の計画を止めてでも江陵中学校建て替えを最優先に進めてほしい。(1)

5. その他

- ① 共働き世帯の増加による学童利用者の増加や、統合によって家と学校の距離も遠くなるため、統合後の新しい滝川第一小学校の校舎には学童の複合化を要望する。(3)
- ② 統合するとなれば、校名やPTA会費、同窓会費などの扱いが出てくるので、早期に動き出せるように統合方針を整理してほしい。(1)